

引用・参考文献

- 諫早直人 2012『東北アジアにおける騎馬文化の考古学的研究』雄山閣
- 諫早直人 2016「新羅における初期金工品の生産と流通」『日韓文化財論集』Ⅲ 奈良文化財研究所・韓国国立文化財研究所
- 諫早直人 2017「三燕的金属工芸品和日本の金属工芸品」『遼西地区東晋十六国時期都城文化研究』遼寧省文物考古研究所・奈良文化財研究所
- 諫早直人・鈴木 勉 2012「古墳時代の初期金工品生産に関する予察—福岡県月岡古墳出土品の調査成果から—」『奈良文化財研究所紀要 2012』奈良文化財研究所
- 諫早直人・鈴木 勉 2015「古墳時代の初期金銅製品生産—福岡県月岡古墳出土品を素材として—」『古文化談叢』第73集 九州古文化研究会
- 岩本 崇 2014「(3) 帯金具」『五條猫塚古墳の研究 報告編』奈良国立博物館
- 岩本 崇 2015「製作技術からみた龍文透彫帯金具の成立」『五條猫塚古墳の研究 総括編』奈良国立博物館
- 上野祥史 2014a「①金銅製龍文透彫帯金具」『七観古墳の研究—1947年・1952年出土遺物の再検討—』京都大学大学院文学研究科
- 上野祥史 2014b「龍文透彫帯金具の受容と創出—新羅と倭の相互交渉—」『七観古墳の研究—1947年・1952年出土遺物の再検討—』京都大学大学院文学研究科
- 宇野愼敏 2000「龍文銙帯金具とその意義」『紀伊考古学研究』第3号 紀伊考古学研究会
- 梅原末治 1921『佐味田及新山古墳研究』岩波書店
- 梅原末治 1965「金銅透彫竜紋帯金具に就いて」『考古学雑誌』第50巻第4号 日本考古学会
- 岡田文男 2014「鉄製品に付着した有機質遺物の分析」『七観古墳の研究—1947年・1952年出土遺物の再検討—』京都大学大学院文学研究科
- 加古川市教育委員会 1997『行者塚古墳 発掘調査概報』(加古川市文化財調査報告書 15)
- 勝部明生・鈴木 勉 1998『古代の技 藤ノ木古墳の馬具は語る』吉川弘文館
- 金田明大 2017「三次元計測とRTIによる土器計測・観察の可能性と課題」『文化財の壺』第5号 文化財方法論研究会
- 京都大学文学部 1963『京都大学文学部博物館考古学資料目録 第3部』
- 京都大学文学部 1968『京都大学文学部博物館考古学資料目録 第2部』
- 金 宇大 2017『金工品から読む古代朝鮮と倭 新しい地域関係史へ』京都大学学術出版会
- 宮内庁書陵部 1979『出土品展示目録 装身具』
- 小浜 成 1993「日本出土帯金具の変遷と製作—龍文系帯金具の国内製作について—」『古墳時代における朝鮮系文物の伝播』埋蔵文化財研究会関西世話人会
- 小浜 成 1997「帯金具」『行者塚古墳 発掘調査概報』(加古川市文化財調査報告書 15) 加古川市教育委員会
- 小浜 成 1998「金・銀・金銅製品生産の展開—帯金具にみる5世紀の技術革新の実態—」『中期古墳の展開と変革—5世紀における政治的・社会的変化の具体相(1)—』(第44回 埋蔵文化財研究集会) 第44回 埋蔵文化財研究集会実行委員会
- 小浜 成 2002「龍文系帯金具からみた日本出土帯金具の製作と変遷」『究班』Ⅱ(埋蔵文化財研究会25周年記念論文集) 埋蔵文化財研究会
- 小林謙一 1982「金銅技術について—製作工程と技術の系譜—」『考古学論考』(小林行雄博士古稀記念論文集) 平凡社
- 早乙女正博 1990「今来の技術と工芸 政治的な装身具」『古墳時代の工芸』(古代史復元 7) 講談社
- 阪口英毅(編) 2014『七観古墳の研究—1947年・1952年出土遺物の再検討—』京都大学大学院文学研究科
- 白石太一郎 1985「年代決定論(二)—弥生時代以降の年代決定—」『岩波講座 日本考古学』1 岩波書店
- 杉山晋作 1991「金銅製品の製作技術」『古墳時代の研究』第5巻 雄山閣
- 鈴木 勉 1998「古代史における技術移転試論Ⅰ—技術評価のための基礎概念と技術移転形態の分類—」『橿原考古学研究所論集』第十三 吉川弘文館
- 鈴木 勉 2000「復元研究の成果を技術史の立場から考える」『研究紀要』第6集 由良大和古代文化研究協会
- 鈴木 勉 2003「彫金—古墳時代の金工技術(1)—」『考古学資料大観』第7巻(弥生・古墳時代 鉄・金銅製品) 小学館
- 鈴木 勉 2004『ものづくりと日本文化』奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

- 鈴木 勉・松林正徳 1996「誉田丸山古墳出土鞍金具と5世紀の金工技術」『考古学論攷』第20冊 奈良県立橿原考古学研究所
- 孫 機 1987「我国古代的革帶」『文物与考古論集』文物出版社
- 高田貫太 2013「古墳出土龍文透彫製品の分類と編年」『国立歴史民俗博物館研究報告』第173号 国立歴史民俗博物館
- 高田貫太 2014『古墳時代の日朝関係—新羅・百濟・大加耶と倭の交渉史—』吉川弘文館
- 高田貫太・金 跳咏 2016「装身具生産」『季刊考古学』第137号 雄山閣
- 田中史生 2005『倭国と渡来人 交錯する「内」と「外」』吉川弘文館
- 田中史子 1998「古墳出土の帯金具」『考古学研究』第45巻第2号 考古学研究会
- 塚本敏夫 2012「金銅・ガラス装飾」『古墳時代の考古学』5 同成社
- 千賀 久 1984「日本出土帯金具の系譜」『橿原考古学研究所論集』第六 吉川弘文館
- 土屋隆史 2018『古墳時代の日朝交流と金工品』雄山閣
- 天理大学附属天理参考館 2003『帯鉤—中国古代金工の美—』（天理ギャラリー第120回展）天理ギャラリー
- 豊島直博 2010「東アジアの鉄製武器」『鉄製武器の流通と初期国家形成』奈良文化財研究所
- 奈良県教育委員会 1962『五条猫塚古墳』（奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告 第20輯）
- 奈良国立博物館 2013～2015『五條猫塚古墳の研究』
- 橋本達也 1995「古墳時代中期における金工技術の変革とその意義—眉庇付冑を中心として—」『考古学雑誌』第80巻第4号 日本考古学会
- 坂 靖 1991「帯」『古墳時代の研究』第8巻 雄山閣
- 樋口隆康・岡崎 敬・宮川 渉 1961「和泉国七観古墳調査報告」『古代学研究』27 古代学研究会
- 廣川 守・内田純子・岳 占偉 2014「透過青銅器の高精細照片進行紋飾研究」『夏商都邑与文化（二）—紀念二里頭遺址發現55周年學術檢討會論文集』中国社会科学院考古研究所
- 藤井康隆 2001「古墳時代中期から後期における金工品生産の展開—金工生産研究の展望—」『東海の後期古墳を考える』（第8回東海考古学フォーラム三河大会）東海考古学フォーラム三河大会実行委員会・三河古墳研究会
- 藤井康隆 2002「晋式帯金具の製作動向について—中国六朝期の金工品生産を考える—」『古代』第111号 早稲田大学考古学会
- 藤井康隆 2003「三燕における帯金具の新例をめぐって」『立命館大学考古学論集』Ⅲ-2 立命館大学考古学論集刊行会
- 藤井康隆 2006「晋式帯金具補考」『古代』第119号 早稲田大学考古学会
- 藤井康隆 2013「大成洞88号墳の晋式帯金具と中国・倭」『最近의 大成洞古墳群의 発掘成果』仁済大学校加耶文化研究所
- 藤井康隆 2014『中国江南六朝の考古学的研究』六一書房
- 古川 匠 2018「4世紀から8世紀の東アジアにおける金工品タガネ彫の変遷とその背景」『古代学研究』215 古代学研究会
- 古谷 毅・清喜裕二 2002「復元模造品作製における基礎資料について」『新沢千塚126号墳復元模造品作製図録』橿原市千塚資料館
- 文化財方法論研究会 2017『文化財の壺』第5号（特集：研究するモノに三次元を2 SfM/MVSを用いた考古資料計測）
- 町田 章 1970「古代帯金具考」『考古学雑誌』第56巻第1号 日本考古学会
- 町田 章 1995「胡服東漸」『文化財論叢』Ⅱ 奈良国立文化財研究所
- 町田 章 2006「鮮卑の帯金具」『東アジア考古学論叢—日中考古学共同研究論文集—』奈良文化財研究所
- 村上 隆 1997「5世紀に作られた帯金具の製作技術を探る—金銅装技法を中心に—」『王者の武装—5世紀の金工技術—』京都大学総合博物館
- 山口欧志 2016「SfM-MVSによる文化遺産の計測」『文化財写真研究』Vol.7 文化財写真技術研究会
- 山口欧志 2017「遺物の微細痕跡の資料化」『文化財の壺』第5号 文化財方法論研究会
- 山田 琢 2000「新山古墳出土帯金具の鋳、及び組立てについて」『研究紀要』第6集 由良大和古代文化研究協会
- 依田香桃美 2000「珠城山古墳・新山古墳・石光山古墳出土金工品の復元作業」『研究紀要』第6集 由良大和古代文化研究協会
- 李 漢祥 2009『装身具 賜与体系로 본 百濟의 地方支配』書景文化社
- 李 成市 1998「東アジアの諸国と人口移動」『古代東アジアの民族と国家』岩波書店
- 李 熙濬 2002「4～5世紀 新羅古墳 被葬者의 服飾品 着裝 定型」『韓國考古學報』47 韓國考古学会